

# 港湾局における今後の国際交流について：概要版

## 従 来

## 課 題

## 今 後 の 進 め 方

**趣 旨**

グローバル化の進展と共に世界の港湾・海運状況等も大きく変化している中、国際交流のあり方についても時代に即した見直しを行う。

**港湾を取り巻く状況**

1 国際情勢

- ・グローバル化の進展
- ・国際社会における相互依存関係の深化
- ・アジア諸港の台頭
- ・大型客船の投入によるクルーズの大衆化

2 国内情勢・横浜港の取り組み

- ・日本の港の国際競争力低下
- ・スーパー中枢港湾の指定
- ・国際競争力を高めるための種々の取り組み
- ・羽田の再国際化

国際協力

- ・港湾整備に関する技術供与が中心
- ・OCDI への職員派遣
- ・JICA 等からの研修生受入れ

- ・港湾整備から管理運営、再開発等へとニーズが変化
- ・新しい管理運営問題など、経験不足な分野への対応

- ・引き続き OCDI や JICA 等と連携し積極的に国際協力を推進
- ・ニーズの的確な把握ときめ細やかなプログラムの展開
- ・一方的な技術供与から研修生を通じた情報収集の機会として活用
- ・港湾局職員のスキルアップの場として活用

ポートセールス

- ・大規模ポートセールス団の派遣
- ・個別に船会社を訪問
- ・客船誘致のためにミッション派遣

- ・大規模な団によるポートセールスの効果の希薄化
- ・船社の経営戦略や航路運営の個別化
- ・新たな付加価値の提供など新しい指標による競争

- ・ターゲットを絞った、戦略的ポートセールスの展開
- ・マーケティング力の強化及び横浜港の有力商品の開発
- ・各部門から誘致部門へのマーケティング情報の一元化
- ・北東アジアや羽田再国際化を視野に入れた外国籍客船の戦略的誘致

姉妹港等交流

- ・6つの港と姉妹港等提携
- ・周年時に式典及びセミナーの実施
- ・職員相互派遣の実施

- ・グローバル化により情報収集交換目的での交流の重要性低下
- ・職員相互派遣の当初目的及び必要性の変化
- ・ビジネス面での協力関係推進と姉妹港以外の港湾との協力

- ・式典だけでなく、誘致につながる活動を併せて実施
- ・職員派遣における公募制の採用と周辺地域情勢等の情報の収集
- ・交流目的を明確化し交流期間を限定した港間交流の実施
- ・今後の包括的な姉妹港提携の原則廃止

国際会議への参加

- ・途上国から年80~100件の受入れ
- ・水際線再開発の視察が増加
- ・国際会議 (IAPH) への定期的参加

- ・物流だけでなく再開発など多様化するニーズ
- ・地球規模の課題への対応
- ・国際機関への形式的加盟

- ・今後とも国際協力の一環として積極的な受入れを推進
- ・視察受入れを通じた海外港湾情報の収集、蓄積、活用
- ・環太平洋セミナーの不定期開催及び必要な国際会議への参加
- ・国際機関への加盟のあり方の見直し

海外代表

- ・米国、香港、韓国等6箇所に設置
- ・情報収集と販促活動を展開
- ・日本の船会社の現地代表に委託

- ・世界情勢の変動が反映されていない配置状況
- ・今後の飛躍が期待されている国・地域の情報収集

- ・ポートセールスを推進するための重要拠点
- ・固定的な配置から世界状況に応じた柔軟な配置への変更
- ・周辺地域も含めたフレキシブルで幅広い情報収集

推進体制

- ・物流と客船の誘致を別の課で担当
- ・物流誘致のサブとロジを別課処理
- ・戦略的誘致の統合部門の未整備

- ・調整や意思決定等に時間がかかり非効率
- ・誘致情報の一元化
- ・誘致戦略におけるマーケティングの強化

- ・物流や客船、国内外に拘わらずポートセールスを誘致推進課に統合
- ・様々な機会を捉えて収集した情報を同課が一元的に管理・活用
- ・ポートセールスのマーケティング部門の強化
- ・戦略的誘致活動の推進